

◀ 初めてのお仕立て ▶

お品書きを書く前にイルサルトを仕立ててくださる工房の話からしたいと思います。私が初めてオーダーでスーツを仕立てたのは西麻布にあったセレクトショップ、今から22年前の1998年、私が26歳の時でした。

それまでユナイテッドアローズやビームスと言ったいわゆる大手セレクトショップにしか行ったことのなかった私が、1対1のマンツーマンの恭しい接客を受けながら世界に一着だけの自分だけのスーツを創り上げていく時間は体験したことのない幸せを感じる時間でした。美味しいエスプレッソを頂きながら(その時はただただ苦いとしか思えませんでしたが。。)生地選び、様々な仕様を決めていく工程は何か大人の階段を上っている様な感覚になったものです。イルサルトが今、完全予約制のサロンをしているのはこの時の体験が記憶のどこかに残っていたからなのではないかと思っています。そして出来上がったスーツも本当に素晴らしいものでした。



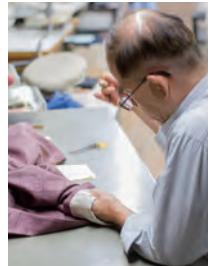
◀ コンプレックスの解消 ▶

何よりも驚いたのが肩のラインの美しさです。私はいわゆる“なで肩”で肩幅も狭く、そのことをコンプレックスに思っていました。肩にかけたカバンはずり下がってくるし、狭い肩幅はカッコ悪いと考えていました。当時流行っていたのは吉川晃司さんの様な胸板が厚い方が着ていた、肩幅の非常に広いスーツだったので。少しでもその広い肩幅に近づけるために、学生服の肩には母親の肩パットを入れていたこともあります(笑)。でも仕立てたスーツを見た瞬間、見たこともない美しさに息をのみました。コンプレックスでしかなかったなで肩が見たこともないような美しい曲線を描いていたのです。



◀ 肩ラインの秘密 ▶

何が起きたのか?と思い、店主さんに聞いたところ、肩の部分が仕立ての真骨頂で、“のぼりのライン”と呼ばれる肩のラインをあえて角度をつけているので、なで肩の方があいやすい。又このスーツはこうした特徴のスーツを日本で一番美しく仕上げる工房で仕立ててもらっている、そんなお話をしてくださいました。この説明に深い納得をし、スーツをもっと知りたくなりいろいろな本を読み漁りはじめ、何着も仕立ててもらいました。色々とわかってくるなかで、自分の体型に対するコンプレックスもなくなっていきました。



◀ 工房を辿る ▶

それから11年後の2009年イルサルトを創業したのですが、真っ先に浮かんだのがこの工房でした。私が感じたあの感動をたくさんのお客様に体験をしてもらいたいと思い色々な知り合いを辿り、私のスーツをお仕立て頂いた工房を見つけだしました。

そしてお取引をして頂ける様にお願いをしたのですが、最初は全く相手にしてもらえませんでした。業界でも有名な工房さんなので色々な意味で敷居が高いこと、そして創業当初は私自身の信用が全くなかったのでお仕立ていただくことは叶いませんでした。



◀ 想いを繋げる ▶

少しずつ実績を積み、私自身の信用を作っていく中で何回もアプローチを重ね、ようやく創業5年目くらいからお取引をさせて頂ける様になり、数年前くらいからはお互いに重要なお取引としてのお付き合いが出来るようになってきました。

1998年の偶然の出会いから時代を超え、今はイルサルトのお客様のスーツを丁寧にお仕立て続けてくださっていることに感謝の気持ちしかありません。ただ単にスーツを仕立てるのではなく、私が体験した感動や積み重ねた信用をも一緒に仕立てスーツに込めています。イルサルトを纏い、そんなことも感じて頂ければこれ以上の喜びはありません。



イルサルトのお品書き



1. スリーピース

スリーピースとは、ジャケット、ベスト(ジレ、ウエストコートとも呼ばれます)、スラックス(パンツとも呼ばれます)が全て同素材、同色、同柄で3点揃っているスタイルのことです。日本では別名「三つ揃え」とも呼ばれ、最も威厳と存在感を感じさせるスタイルです。ベストを着ることにより胸の厚みを増してくれる効果があるので、体型がより美しくみえるというメリットもあります。



2. スーツ

スーツとは、スリーピースのベストがなくなったり、上下セット、ツーピースとも呼ばれます。スリーピースに比べると少しカジュアルな印象をあたえます。ジャーイジ素材、ストレッチ生地、コットン生地、デニムといったカジュアルな生地でも仕立てることが出来るのがこのスーツ、最近のカジュアル化のなかで様々なスーツが登場しています。イルサルトでも通常のスーツ以外にもこうした色々な生地を用意しております。